

第2回 東京外環地下水検討委員会 主な意見

1. 地下水流動保全工法について

- 各 JCT・IC の地下水流動保全工法として、集水・涵養機能の信頼性が高いこと、完成後に地上からメンテナンスができること及び集水・涵養井戸を設置するための用地があることから、「集水・涵養井戸」方式が妥当である。
- 「集水・涵養井戸」方式の基本構造タイプは、通水管の設置方法に応じて選定していくことでよい。
- 地下水流動保全工法の設計目標値 $\pm 0.1\text{m}$ 未満は、過去の自然地下水位変動量と比べて非常に小さな値であり、これを満足するように設計すれば、周辺地下水環境への影響は回避できると考えられる。

2. 今後の地下水位観測について

- 中央 JCT 周辺における深層地下水の観測井については、経年的な水位上昇の要因を分析する等のために新たな観測井を設けて、引き続き経年的な水位変動を注視していくことでよいと考える。
- 大泉 JCT 周辺で本線シールドトンネル直上や開削部分に位置し、工事施工の支障となる観測井の代替観測井については、新しく追加する観測井の設置位置や数でよいと考える。